

特集⑤

住民と公民館協働による地域づくり



大川公民館 主事

山本 和哉
(大洲市)



◆大洲市の大川地域

大川地域は、内子町五十崎に接した大成地域と西予市野村町に接した蔵川地域からなる、のどかな中山間農林地帯で、面積28.56km²、人口約900人の小さな町です。主な産業は「農林業」で、

寒暖の差を生かして作った「蔵川米」は大変おいしく、その昔、大洲藩のお殿様への献上米でもあったなど、おいしいお米として有名です。

夏から秋にかけての鮎漁など、豊かな恵みを与えてくれる肱川と緑に囲まれた自然環境の中、「心のかようふるさとづくり」を目指し、「汝の郷土を開発する者は汝自らなり」の精神のもと、公民館と地域住民が一体となり



自然豊かな大川地区

地域の振興に取り組んでいます。大川公民館は各種地域活動、コミュニケーション作りの場、生涯学習の場として多くの地域住民に親しまれ、活動の拠点となっています。

◆行動力・結束力に支えられる地域づくり

大川地域の人々は地域活性化、町おこしに対してとても熱心であり、肱川という素晴らしい自然を利用しての活動はできないものかと考えていたところ、ある地域住民の「肱川に鯉のぼりを渡そう」との一言が大川鯉のぼり祭りの始まりで、今から6年前の4月のことでした。

思いついたら即実行という地域気質とあいまって、どうせ鯉のぼりを渡すなら5月の連休までに渡そうという話になりました。1カ月間の準備期間しかなく、鯉のぼりの渡し方、技法等、全く知識が無いゼロからのスタートだったため、時間的にハードで本当に出来るのか前途多難な船出となりました。事業を進めるにあたつ

てまず最初に直面した問題が、河川の占用許可を取る必要があるという事でした。この許可が貰えないと事業自体が行えず、今までの地域の努力が無駄になってしまいうからです。

また、許可申請における一番の難問は、鯉のぼりを渡すワイヤーを支える支柱の構造図、全体の設計図等を作成する必要がある事でしたが、

ここで快く力を貸してくれたのが地域住民の方でした。仕事の経験を生かし図面を作成いただいたおかげで無事に河川占用許可を取ることが出来ました。

支柱を設置する工事から始まり、鯉のぼりを肱川に渡す作業においては、専門的な



鯉のぼり手作り風景

◆活気あふれる大川鯉のぼり祭り

毎年5月3日をお大川鯉のぼり祭りの日と決め今年で6年目となりますが、4年目の時には大洲市からの補助を受けて鯉のぼりを渡すワイヤーを1本増設し、今では2本約200匹の鯉のぼりを泳がすなど、勇壯

知識を持つている人の協力が不可欠でしたが、幸運にも大川地域にはいろんな職種の方がおられ、無事に約100匹の鯉のぼりを大川に渡すことができました。この鯉のぼり川渡しを通じて、地域住民の結束力がより高まったのは言うまでもありませんが、自分たちの町を自分たちの力で何とか盛り上げたいとの思いが、1カ月間という短い限られた期間で、これ程の一大事業を成し遂げた成功への鍵であったと思います。



鯉のぼり準備



大空を泳ぐ鯉のぼり

かつ華麗な景色を多くの人に楽しんでもらっています。また、並んで泳ぐ小さな鯉のぼりは、地元の子供たちが頑張って作ったもので、見る人が思わず笑顔になれます。

この大川鯉のぼり祭りは、今では地域主体で企画・運営をしており、公民館は手伝い程度の関わり方で、地域手作りの行事となっています。今年の大川鯉のぼり祭りは晴天にも恵まれ、市内外から多くのお客さんに来ていただき、各種パサー・イベントを楽しんでいただき、盛大に開催することが出来ました。大川と言えば鯉のぼり祭りというイメージも徐々に定着し、大川地域の一大行事となっており、年々、にぎわいも増すなど地域振興の一つとなっています。

◆今後の課題と展望

大川鯉のぼり祭りに限らず、盆踊り大会・地域ふれあい祭り等、いろんな公民館活動を行うにしても、地域住民の皆さんの協力が必要となります。大川地域は、小さな集落である上に、少子高齢化・人口減少が進んでいます。更に来年の4月には小学校も統合され廃校になることとなっているなど、

大川地域を取り巻く環境は、ますます厳しいものになっていくものと思われれます。今の活力ある大川地域を絶やさないためには、大川地域を担う次の世代の人づくり、より一層のつながり作り、地域を愛する心の醸成が重要であり、こういった土壌づくり、地域活動の活性化の一役を担うのが公民館の役割であると考えます。地域の役割、公民館の役割、それぞれの立場のもと互いに補い合い、両輪となって大川地域を牽引していきたいと思っています。心豊かで住みよい地域、つながりのある地域、活力のある地域を目指して、これからも地域と一体となり頑張っていきたいと思います。



大川鯉のぼり祭り